学びの風便り

リーディングスクール通信 21　R6.6.17

発行：松本市教育委員会　教育研修センター

特集！学びの改革のあゆみ　清水中学校・波田小学校

清水中学校　"表現力が育つ"学校づくり！

リーディングスクール２年目の清水中学校の歩みが進んでいます。今年度は、生徒全員が平等に意見を言え、それを反映させて全校で高め合っていこうという願いを込めて、生徒会スローガンに「SAY！（せい！）～生徒の声が導く成功～」が掲げられました。生徒のこの願いを受け、武井校長先生は「多様な意見に触れ、自分事として考えることが、生徒自身の価値観の問い直しにつながっていくだろう」と生徒会活動へ期待をしています。先生方も「すべての生徒が生徒会活動に対して自分の考えをもち、表現できるようになってほしい」「他者の意見も受け入れながら、課題解決のために合意形成できる生徒になってほしい」と目指す方向性を明確にしています。この方向性はまさに、昨年度から継続の全校研究テーマ「表現力が育つ～すべての活動を通して～」をより具現していくものです。

ファシリテーターとなって、委員の声を聴く生徒会役員の姿

先日行われた委員会では、生徒会スローガンの具現に向けて諸活動がさらによくなるための工夫が話し合われていました。オンライン上の同時共同編集機能を活用しながらアイディアを出し合う委員会、一人ひとりが付せんに考えを書いたものを分類しながら練り上げていく委員会など、委員一人ひとりの声を反映させられるようにしていました。

ある委員会では、生徒会役員の意見を伝達するのではなく、役員がファシリテーターとなって委員の意見を肯定的に傾聴し、さらにその意見のよさを価値づけながら、アイディアを発散しやすい雰囲気を創り出していました。役員と担当職員との事前打ち合わせの際に、この委員会では担当職員がファシリテーターの役割を意図的に担って、範を示していたのです。自分の考えが自分の言葉で整理されていく心地よさを感じた生徒が、今回はファシリテーターとなって委員の声を聴くことを大事にしたというわけです。

ファシリテーターとして委員の意見に笑顔で応える役員

このように、生徒と教師が目指すものを共有し、協働していくところが清水中学校の強みです。

職員集団の語り合いから生まれる問い直し

研究主任の願いから、清水中学校では先生方が語り合う場を日常的に設けています。この日の放課後も、子どもの姿をもとに、生徒会活動だけでなく、普段の授業や短学活などすべての活動を通して表現力が育つためにどうしたらよいかが語り合われました。

先生方が語り合う場に立ち会いながら、ふと、昨年度３学期に行われた、子どもと教師の温かな関係性の大切さを学ぶ校内研修が思い出されました。埼玉大学の岩川直樹先生の「清水中学校の職員室から聞こえてくる先生方の声がいい。教師の問い直しというものは、こういう職員集団の語り合いを通してしか生まれない」という言葉です。

子どもの姿をもとに今後の支援の方向性を語り合う先生方

子どもも教師も、互いに表現し合い聴き合う学校として、清水中学校がさらに進化していきます。

波田小学校　子ども理解を深め、多様性を受容する職員集団に！

パイオニア校として「多様性を受容する学校づくり」に取組み、２年目を迎える波田小学校。今年度は、「子ども理解を深め、多様性を受容し、やってみたいこと、挑戦したいことを実現できる学校」を目指しています。５月末には、研修係が企画した波田小マナカフェ（好きな飲み物を持参して、みんなで学び合えるカフェのような雰囲気の研修）で、中信教育事務所神谷哲彦指導主事をお呼びし、「多様な子どもへの学びの保障」についてのお話を聴き、グループで感想を語り合いました。目先の「困った」の解決に目が向いてしまいがちな毎日。子どもの将来の自立を見通し、今、私たち教師が大切にしたいことについて学び合いました。先生方からは次のような声がありました。

○「今自分が育てている児童は、20 年後に誰かの親になる人なのだ」という視点を教えていただきました。…教師がある子に対してどのように接しているかを周囲の子どもたちはよく見ていて、同じようにその子に接するようになるのと同じですね。大人（教師）の心もちで、クラスの雰囲気は大きく変わるし、「困っている子」に対する周囲の見方・接し方も違ってくる。「教師」という生き方の責任の重大さを再認識しました。

○神谷先生のお話を聞きながら、あの子もこの子もと何人もの子どもたちの顔が思い浮かびました。…自分を丸ごと受け止めてもらえている安心感や、大事にされているという絶対的な絆を、子ども自身が大人との関係で感じてもらえるかかわりが大切なのだと改めて学びました。…

このような研修を通して、教師としての今の自分の姿を問い直し、多様な子どもたちを受容する教師のあり方について学びを深めていきます。

やってみたいこと・挑戦したいことを実現できる学校に！

２年生は、登場人物になりきって音読をする国語の単元「ふきのとう」の学習をしました。学習が進み、自信をもって音読ができるようになってきたときのことです。子どもたちが「音読を発表したい」「他の学年の人たちに聞いてほしい」「１年生に聞いてほしい」「２年生の他のクラスの人たちに聞いてほしい」と言い始めました。担任の K 先生は、子どもたちの願いを実現したいと考え、単元展開を変更し、２年生の他のクラスに声をかけ、３クラス合同の「音読発表会」を体育館で行うことになりました。

「どの部分を何行読むか」は、子どもたち自身が決めました。「音読発表会」に向けて、子どもたちは今まで以上に張り切って練習を重ねました。「先生、僕たちの班４回も練習したよ」と得意げに話す子。音読に苦手意識をもつＡさんは、本番前、「先生、緊張してきた。ぼく頑張る」とやる気満々でした。

体育館での３クラス合同の音読発表会

発表会当日、緊張した雰囲気の中、３クラスが６つの班に分かれてそれぞれの練習の成果を発表しました。いつもとは違うクラスの友だちの前で発表する姿は新鮮で、やり切った後の子どもたちの笑顔が印象的でした。

K先生のクラスでは、「自分たちがやってみたい」と思った「音読発表会」が実現し、音読に自信をもち新たな目標を見いだしました。それは、生活科で地区探検に行くので、地区の保育園で「音読発表会」をやり、「保育園の子どもたちに自分たちの音読を聞いてほしい」という願いです。K先生は、「子どもたちが『やりたいことが実現する』経験をすることで、次につながることを学びました。日常授業の中で、これからも“いきいき、わくわく、にこにこ（学校教育目標実現に向けてのキーワード）”をつくっていきたいです」と話しました。

この学びの風を広げ、「やってみたいこと・挑戦したいことが実現できる学校」を目指した波田小学校の挑戦は続きます。